

東日本大震災からの復興

～これまでの7年間と今後の取り組み～

宮古市東日本大震災復興計画 計画期間 平成23年度～平成31年度（9年間）

23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
復旧期			再生期			発展期		



鉾ヶ崎・光岸地地区のまちびらきでの熱気球搭乗体験（平成29年10月）



東日本大震災からの復興

～これまでの7年間と今後の取り組み～

目次

1. はじめに	02
2. 東日本大震災から7年間の道のり	03
3. 宮古市東日本大震災復興計画 3つの柱それぞれの取り組み	
(1) すまいと暮らしの再建	06
(2) 産業・経済復興	09
(3) 安全な地域づくり	12
4. 発展期の取り組み 中心市街地拠点施設整備・ スマートコミュニティ	15
三陸ジオパーク・津波対策施設	16
道路交通網	17
フェリー航路・鉄道の復旧と新駅	18
5. おもな復興事業の現況	19

東日本大震災の概要

■地震と津波の状況

- (1)地震発生日時 平成23年3月11日(金) 午後2時46分
- (2)震源地 三陸沖北緯38度6.2分、東経142度51.6分、牡鹿半島の東南東約130km付近
- (3)震源の深さ 約24km
- (4)地震の規模 マグニチュード9.0
- (5)震度 震度5強/茂市、震度5弱/五月町、鉾ヶ崎、長沢、田老、川井、門馬田代
- (6)津波の最大波 平成23年3月11日(金)午後3時26分 8.5m以上

■被害の状況

- (1)人的被害 死者517人(うち行方不明者94人)
- (2)住家被害 4,449棟(全壊2,677棟、大規模半壊688棟、半壊640棟、一部損壊444棟)
- (3)非住家被害 4,639棟(全壊3,291棟、大規模半壊647棟、半壊534棟、一部損壊167棟)
- (4)被害推計額 総額2,457億円※国・県の施設、鉄道、電信電話、電気事業者関係等の被害を除く
(主な被害推計額/住宅1,496億円、商工労働関係施設281億円、水産関係施設215億円、漁港施設150億円)
- (5)被災世帯 4,582世帯、11,979人※被災世帯数は罹災程度が半壊以上、発災時数値

1 はじめに



本市に大きな爪痕を残した東日本大震災から、7年が経過いたしました。

「宮古市は必ずや復興いたします」。

この強い思いと、思いを共有する皆様のご支援とご協力をいただきながら、復興への歩みを進めております。

平成31年度を最終年度とする復興計画は、「復旧期」「再生期」を経て、平成30年度は、震災以前よりも活力があり、魅力あふれるまちとして発展するための取り組みを行う「発展期」の中間年を迎えます。引き続き、「すまいと暮らしの再建」をはじめ、「産業・経済復興」、「安全な地域づくり」の3つの柱に基づき、復興の取り組みを進めてまいります。

「すまいと暮らしの再建」につきましては、鍬ヶ崎・光岸地地区の都市再生区画整理事業における土地の引き渡しは3月末に終了する見込みであり、これをもって宅地整備は完了いたします。すべての被災者の一日も早い暮らしの再建に向け、今後も一人ひとりに寄り添った支援をしてまいります。

「産業・経済復興」につきましては、生産者や事業者の再建を支援するとともに、担い手の確保・育成のための支援を拡充してまいります。

道の駅たろうは4月のグランドオープンを予定しております。三陸ジオパークのゲートウェイとして、交流人口の拡大と地域産業の振興に取り組んでまいります。

「安全な地域づくり」につきましては、宮古駅南側に建設中の中心市街地拠点施設「イーストピアみやこ」、宮古駅とをつなぐ自由通路「クロスデッキ」は、7月の完成、10月の開設を予定しております。市民の安全・安心な暮らしを支える防災拠点として、着実に整備を進めてまいります。

いよいよ6月には、岩手県初となる定期フェリー「宮蘭航路」が実現いたします。また、復旧中のJR山田線宮古・釜石間は、平成30年度中に全線の整備が完了し、三陸鉄道による一貫運行が行われる予定です。三陸沿岸道路や宮古盛岡横断道路、遠野市と川井地域をつなぐ国道340号、主要地方道重茂半島線、市北部環状線などの道路整備も着実に進んでおります。これらの新たな交通ネットワークを活用し、さらなる産業振興や地域発展に向けた取り組みを強化してまいります。

活気と笑顔があふれる『「森・川・海」とひとが共生する安らぎのまち』の実現のため、これからも市民の皆様と共に復興を成し遂げ、未来を切り開くまちづくり「宮古創生」に全力で取り組んでまいります。

平成30年3月

宮古市長 山本 正徳

2 東日本大震災から7年間の道のり

2011年(平成23年)

2012年(平成24年)

2013年(平成25年)



すまいと暮らしの再建

避難者数 11,979人

「すまいの再建」第1次独自支援

「すまいの再建」第2次独自支援

住宅再建率 約19%

避難者数 8,251人

指定避難所すべて閉鎖

入居開始

すべて完成

産業・経済復興

宮古市魚市場 業務再開

田老魚市場 業務再開

養殖施設復旧率 約61%

漁船復旧率 約14%

平成23年観光客数 約34万人

平成24年観光客数 約74万人

漁船復旧率 約90%

安全な地域づくり

高台移転宅地整備率 約1%

震災ガレキ処理率 約3%

震災ガレキ処理率 約35%

これまでの主な動き

2011(平成23年)

- 三陸沿岸道路「松山―田老間」の中心杭設置式を実施(12月23日)
- 東日本大震災復興特別区域法が成立(12月7日)
- 宮古市東日本大震災復興計画(基本計画)を策定(10月31日)
- グリーンピア三陸みやこ敷地内に共同仮設店舗「たちちゃんハウス」がオープン(9月25日)
- 県が岩手県東日本大震災津波復興計画復興基本計画を策定(8月11日)
- 指定避難所を全て閉鎖(最大時85箇所、8,889人が避難)(8月10日)
- 国が東日本大震災復興基本方針を策定(7月29日)
- 応急仮設住宅がすべて完成(62箇所、2,010戸)(7月25日)
- 宮古市東日本大震災犠牲者合同慰霊祭を挙行(6月26日)
- 東日本大震災復興基本法が成立(6月20日)
- 宮古市震災復興基本方針を策定(6月1日)
- 応急仮設住宅への入居を順次開始(5月15日)
- 天皇皇后両陛下が被災地をご訪問(5月6日)
- 宮古市東日本大震災復興本部を設置(4月19日)
- 応急仮設住宅の建設を開始(3月25日)
- 達増拓也岩手県知事が被災地を視察(3月18日)
- 東北地方太平洋沖地震・津波により宮古市災害対策本部を設置(3月11日)

2012(平成24年)

- 野田佳彦首相が宮古市を視察(10月27日)
- 宮古市災害対策本部を廃止(宮古市災害対策本部会議を78回開催)(8月31日)
- 宮古市役所本庁舎1階フロアが復旧(7月2日)
- 県が復旧・復興ロードマップ(総括工程表)を発表(6月11日)
- 平野達男復興相が宮古市を視察(5月23日)
- 被災住宅の再建支援の補助事業を開始(5月)
- 震災がれきの仮設焼却炉が稼働(4月)
- 東日本大震災復興まちづくり計画を策定(3月30日)
- 宮古市東日本大震災復興計画(推進計画)を策定(3月30日)
- 宮古盛岡横断道路「藤原―松山間」の中心杭設置式を実施(3月25日)
- 宮古市東日本大震災一周年追悼式を挙行(3月11日)
- 宮古市と釜石市に支所を設置(2月10日)
- 国が復興庁を設置し、盛岡市に岩手復興局、宮古市と釜石市に支所を設置(2月10日)

2013(平成25年)

- 三陸ジオパークが日本ジオパークに認定(9月24日)
- コミュニティFM「みやこハーバラジオ」が開局(8月26日)
- 宮古市広域総合交流促進施設「シートピアなあと」が復旧し、供用を再開(7月6日)
- 摂持地区漁業集落防災機能強化事業による宅地(3戸)が完成(7月)
- 三陸復興国立公園が創設(5月24日)
- 災害公営住宅建設予定を公表(5月1日)
- 安倍晋三首相が根本匠復興相とともに宮古市を視察(4月6日)
- 浦の沢・追切地区漁業集落防災機能強化事業による宅地(2戸)が完成(3月)
- 宮古市東日本大震災二周年追悼式を挙行(3月11日)



2014年(平成26年)

2015年(平成27年)

9月 12月

1月 3月 6月 9月 12月

1月

3月

6月

9月

12月

避難者数
6,174人

避難者数
4,518人

災害公営住宅整備
約5%

災害公営住宅整備
約33%

「すまいの再建」
第3次独自支援

住宅再建率
約45%

住宅再建率
約60%

「すまいの再建」
第4次独自支援

養殖施設復旧率
約99%

水産加工施設再開率
約40%

養殖施設復旧率
100%

水産加工施設再開率
約50%

漁港復旧率
約17%

漁港復旧率
約39%

漁船復旧率
約99%

平成25年観光客数
約111万人

平成26年観光客数
約123万人

平成27年観光客数
約122万人

高台移転宅地整備率
約10%

高台移転宅地整備率
約32%

高台移転宅地整備率
100%

区画整理による宅地整備
田老地区 100%

震災ガレキ処理率
100%

スマートコミュニティ
カーシェアリング
事業開始

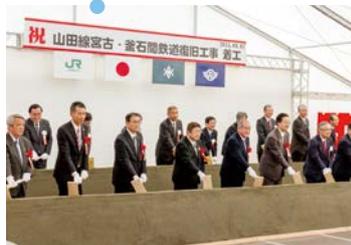
スマートコミュニティ
津軽石及び田老地区
メガソーラー完成

2014(平成26年)

- 千鶴地区漁業集落防災機能強化事業による宅地(3戸)が完成(12月)
- たろう観光ホテル等の震災遺構保存への支援を復興庁が発表(11月15日)
- 宮古盛岡横断道路「根市」箱石間」の中心杭設置式を実施(11月8日)
- 崎山地区防災集団移転促進事業による宅地(6戸)が完成(10月)
- 災害公営住宅の入居者募集を開始(1月15日)
- 田老地区三王団地の現場見学会を開催(2月2日)
- 法の脇地区防災集団移転促進事業による宅地(12戸)が完成(3月)
- 堀内地区漁業集落防災機能強化事業による宅地(2戸)が完成(3月)
- 宮古市東日本大震災三周年追悼式を挙(3月11日)
- 震災による災害廃棄物の処理が完了(3月31日)
- 三陸鉄道北リアス線「小本」田野畑間の運転再開により、全線運転再開(4月6日)
- 宮古市民文化会館が復旧し、式典と市民による舞台芸術発表を開催(12月21日)
- 赤前災害住宅の入居を開始(12月)
- 宮古市中心市街地拠点施設整備事業基本構想を策定(11月14日)
- 音部地区漁業集落防災機能強化事業による宅地(3戸)が完成(7月)
- 石浜地区漁業集落防災機能強化事業による宅地(2戸)が完成(7月)
- リアスハーバー宮古が復旧し、供用を再開(5月29日)
- 環境省整備の震災メモリアルパーク中の浜がオープン(5月24日)
- 高浜災害住宅、近内災害住宅1号棟の入居を開始(5月)

2015(平成27年)

- JR山田線「平津戸」松草間」を走行中の列車が土砂に乗り上げ脱線(12月11日)
- 本町災害住宅、八木沢災害住宅の入居を開始(12月)
- 高木毅復興相が宮古市を視察(11月22日)
- 田老まちびらき記念式を挙(11月22日)
- 田老災害住宅、田老三王災害住宅1、3、5、6号棟、金浜災害住宅の入居を開始(11月)
- 津軽石災害住宅、鴨崎災害住宅の入居を開始(10月)
- 黒田町災害住宅の入居を開始(9月)
- 田老地区防災集団移転促進事業による宅地(159戸)が完成(9月)
- 重茂災害住宅、西町災害住宅、上真災害住宅の入居を開始(8月)
- 宮古市応急仮設住宅撤去・集約化計画を策定(7月1日)
- 実田災害住宅の入居を開始(7月)
- 宮古市新市10周年記念式典を挙(6月14日)
- 高浜・金浜地区防災集団移転促進事業による宅地(40戸)が完成(6月)
- 日の出町災害住宅の入居を開始(6月)
- 西ヶ丘災害住宅の入居を開始(5月)
- 宮古港開港400周年記念開港時代行列・記念式典を挙(4月24日)
- 和見町災害住宅、近内災害住宅2号棟、崎山災害住宅、磯鶏災害住宅の入居を開始(4月)
- 宮古市中心市街地拠点施設整備事業基本計画を策定(3月25日)
- 宮古市東日本大震災四周年追悼式を挙(3月11日)
- 川崎近海汽船株がフェリー「新航路」宮古ー室蘭「開設の検討を開始(3月10日)
- JR山田線「宮古」釜石間」の復旧工事の着工式を実施(3月7日)
- 佐原第2災害住宅、宮町災害住宅の入居を開始(3月)
- 重茂地区漁業集落防災機能強化事業による宅地(17戸)が完成(3月)
- JR山田線「宮古」釜石間」の復旧及び三陸鉄道への移管について、関係自治体、三陸鉄道及びJR東日本が基本合意(2月6日)
- 竹下巨復興相が宮古市を視察(1月22日)
- 赤前地区防災集団移転促進事業による宅地(46戸)が完成(1月)



2016年(平成28年)

2017年(平成29年)

2018年(平成30年)



区画整理による宅地整備
 鎌ヶ崎・光岸地地区 100% (見込)

スマートコミュニティ
 地産電力(津軽石発電所)
 供給開始

スマートコミュニティ
 電気自動車用の
 急速充電サービス開始

2016(平成28年)

中心市街地拠点施設建設工事安全祈願祭を挙(11月4日)
 第71回国民体育大会「希望郷いわて国体」のセーリング及びレスリング競技会を開催(10月2日〜10日)
 今村雅弘復興相が宮古市を視察(9月15日)
 台風10号の大雨で、道路の決壊や橋の流失、住宅地への浸水、土砂崩れなどが発生(8月30日)
 田老診療所が三王団地に移転復旧し、供用を再開(8月2日)
 田老地区中心部に移転した道の駅たるうが一部営業を開始(7月31日)
 黒石市・宮古市姉妹都市締結50周年記念祝賀会を挙(7月30日)
 崎山貝塚縄文の森公園複合施設がオープン(7月16日)
 皇太子ご夫妻が岩手県沿岸被災地視察として本市をご訪問(6月20日〜21日)
 震災の記憶を伝える「学び防災」ツアー利用者が10万人に達し、記念セミナーを開催(5月14日)
 田老野球場が移転復旧し、供用を再開(4月22日)
 津軽石地区中心部に集約した公共施設の合同開所式を挙(4月20日)
 津波遺構「たるう観光ホテル」の保存整備工事が完了し、一般公開を開始(4月1日)
 田老三王災害住宅4号棟、7〜10号棟、磯鶏上村災害住宅の入居を開始(4月)
 宮古市東日本大震災五周年追悼式を挙(3月11日)
 川崎近海汽船株がフェリー新航路「宮古―室蘭」開設を正式決定(3月7日)
 市議会で、事務所(市役所)の位置を定める条例改正案が可決(2月1日)
 国土交通省が田老地区中心部に移転する道の駅たるうを「重点道の駅」に選定(1月27日)
 港町災害住宅の入居を開始(1月)

2017(平成29年)

山口災害住宅の入居を開始(市内整備25団地766戸すべて完成)(2月)
 多良間村・宮古市姉妹都市締結20周年記念祝賀会を挙(1月12日)
 安倍晋三首相が宮古市を視察(3月12日)
 宮古市東日本大震災六周年追悼式を挙(3月11日)
 鎌ヶ崎地区に整備したラウンドアバウト(環状交差点)の供用を開始(3月12日)
 宮古市魚市場増築棟の落成式を挙(4月23日)
 吉野正芳復興相が宮古市を視察(5月1日)
 復旧した宮古運動公園の落成式を挙(7月12日)
 川崎近海汽船株がフェリー新航路「宮古―室蘭」の営業開始日平成30年6月22日を発表(9月1日)
 道の駅たるうに産直・交流施設「とれたるう」がオープン(9月23日)
 鎌ヶ崎・光岸地まちびらき記念式を挙(10月28日)
 復旧し運転を再開(11月5日)
 平成27年12月の脱線事故のため運転を見合わせていたJR山田線「上米内―川内間」が

2018(平成30年)

三陸沿岸道路「田老真崎海岸―C―岩泉龍泉洞―C間」が供用を開始(3月21日)
 岩手県と合同で東日本大震災七周年追悼式を挙(3月11日)
 中心市街地拠点施設及び自由通路の愛称が「イーストピアみやこ」及び「クロスデッキ」に決定(12月21日)
 三陸沿岸道路「山田―C―宮古南―C間」が供用を開始(震災後に事業着手した復興道路・復興支援道路としては初の開通区間)(11月19日)
 復興27年12月の脱線事故のため運転を見合わせていたJR山田線「上米内―川内間」が



3 宮古市東日本大震災復興計画

3つの柱それぞれの取り組み

(1) すまいと暮らしの再建

被災者の再建支援

避難者について

災害公営住宅や宅地の整備の進捗に伴い、住まいの再建が加速しています。今後も、一刻も早い住まいの再建に向け、支援を継続していきます。

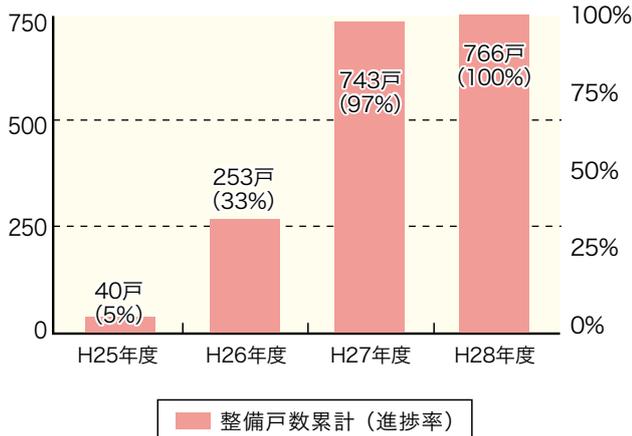
避難者の推移と住宅再建率(H29.12現在)



災害公営住宅の整備

計画した25団地766戸の災害公営住宅は、平成29年1月までにすべて完成しました。

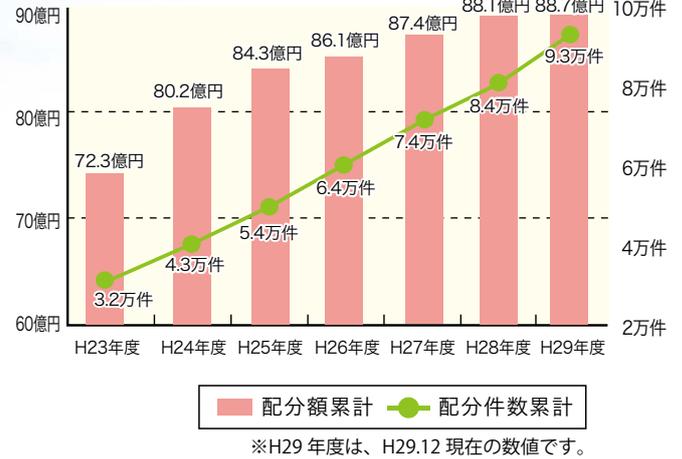
災害公営住宅整備事業の進捗状況



義援金の配分

平成29年12月までに、国、県及び市に寄せられた義援金約89億円を延べ18回配分しました。

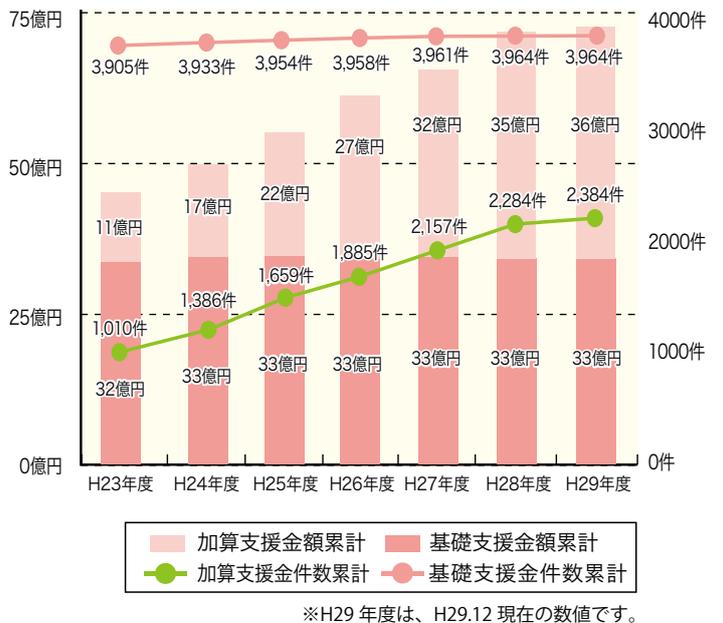
義援金の配分状況(H29.12現在)



支援金の交付

住宅の被害に応じて支給する基礎支援金と住宅の再建方法に応じて支給する加算支援金を交付しています。平成29年12月までに、合わせて約69億円を交付しました。
(注)平成28年度より、件数の集計方法をのべ支給件数から実支給件数に変更)

支援金の交付状況(H29.12現在)



□「すまいの再建」への宮古市独自支援

被災者の住宅再建を支援するため、「すまいの再建促進事業」など6つの市独自支援により、これまで延べ2,301件、約36億7千万円を支給しました。

【6つの市独自支援策】

- 1 すまいの再建促進事業
- 2 浸水宅地等復旧支援事業
- 3 地域木材利用住宅推進事業
- 4 定住促進住宅建築利子補給事業
- 5 浄化槽再設置支援事業
- 6 被災者転居費用支援事業

「すまいの再建」独自支援の状況 (H29.12現在)



※H29年度は、H29.12現在の数値です。

□被災者生活相談事業等の状況

市生活課相談窓口で被災者の生活相談を行っています。また、定期的に「住まいの相談会」を実施しています。

被災者生活相談状況(H29.12現在)



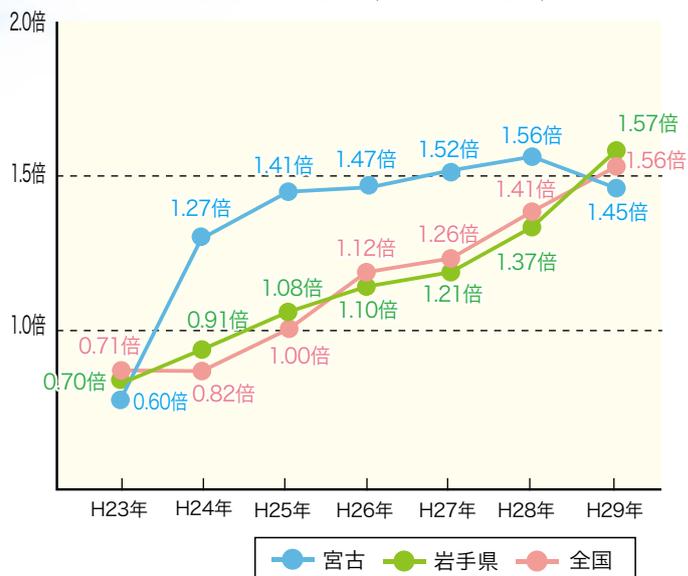
※H29年度は、H29.12現在の数値です。

■雇用の維持・確保

□有効求人倍率の推移

国の震災等緊急雇用創出事業は平成28年度に終了しましたが、継続して常用雇用への移行を支援するトライアル雇用奨励金、離職者の資格取得訓練費用を助成する離職者資格取得支援補助金や再就職支援セミナーの実施などの支援をしています。

有効求人倍率の推移(各年11月現在)



■保健・医療の確保・充実

□健康維持・増進と心のケアのための取り組み

被災者の心身の健康維持・増進のため、これまでに延べ約1万8千世帯(うち、平成29年度は約700世帯(平成29年12月末現在))への訪問を実施しました。今後も引き続き、訪問による健康調査等の支援を実施していきます。

□保健・医療施設の復旧

田老診療所は、平成28年8月に三王団地内に移転復旧しました。宮古保健センターは、市民総合体育館敷地内の仮設庁舎で業務を行っており、平成30年度に本復旧する見込みです。(P15 中心市街地拠点施設整備事業参照)



■福祉の充実

□福祉支援の取り組み

被災者を対象に、障がい福祉サービス等の利用者負担の免除を実施しています。また、千鶏保育所の流失に伴う重茂児童館までの送迎バスの運行を行っています。

■学校教育環境の確保・充実

□児童・生徒の教育環境を整えるための取り組み

赤前・重茂小学校及び第二中学校校庭の応急仮設住宅は、平成29年2月にすべて撤去され、同年9月に校庭の復旧工事が完了しました。また、鉾ヶ崎小学校校庭の応急仮設住宅は、平成30年度に撤去される見込みです。

震災に伴う通学バスの運行は、仮設住宅から通学する児童生徒がいなくなったため、平成29年12月で終了しました。学用品費や給食費などの必要な援助等は引き続き行っています。



復旧工事を終えた第二中学校校庭での応援歌練習の様子
(平成29年8月)

□児童福祉施設の復旧

津軽石及び田老保育所は平成28年4月に移転復旧しました。



田老保育所でのみずぎ団子作り
(平成30年1月)

□スポーツレクリエーション施設の復旧

藤の川海水浴場は平成25年3月、リアスハーバー浮桟橋は平成27年3月、田老野球場は平成28年3月にそれぞれ復旧しました。また、宮古運動公園は、平成29年5月に復旧工事を終え、7月に供用を開始しました。



宮古運動公園のこけら落としイベントで陸上体験をする子どもたち
(平成29年7月)

■地域コミュニティの強化・再生

□新たなコミュニティづくりのための取り組み

再建先の地域コミュニティを再生し活動を充実させるため、地域自治組織の設立や加入促進に支援を行っています。

■生涯学習等施設の復旧と文化財の保存・継承

□社会教育施設の復旧

磯鶏公民館は平成24年8月、田老公民館は平成25年6月、津軽石及び鉾ヶ崎公民館は平成28年3月にそれぞれ復旧しました。また、消防団第11分団屯所を併設した高浜地区センターは、平成29年5月に復旧を終え、供用を開始しています。堀内地区センターは平成30年5月に復旧する見込みです。

□文化財の保存・継承のための取り組み

復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査事業は、平成23年5月から実施し、調査対象68箇所すべての野外調査が完了しました。平成28年7月には、埋蔵文化財整理収蔵施設も併設した崎山貝塚縄文の森公園複合施設が完成し、資料整理及び発掘調査報告書の刊行作業を実施しています。



埋蔵文化財整理収蔵施設での作業の様子
(平成30年1月)

□文化施設の復旧

市民文化会館は平成26年12月に復旧し、芸術文化活動の中心拠点施設として大きな役割を果たすとともに、市の復興のシンボルとなっています。



市民劇「拓け、いのちの道を～鞭牛和尚の挑戦～」フィナーレの様子
(平成30年2月)

(2) 産業・経済復興

■ 農業の復興・再生

□ 農地・農業用施設の復旧

農地・農業用施設を原形復旧工事やほ場整備などにより復旧してきました。平成 29 年 8 月に津軽石・赤前地区のほ場整備が完了し、耕作が再開されています。



津軽石・赤前地区のほ場整備

(平成 30 年 1 月)

□ 生産者の再建支援のための取り組み

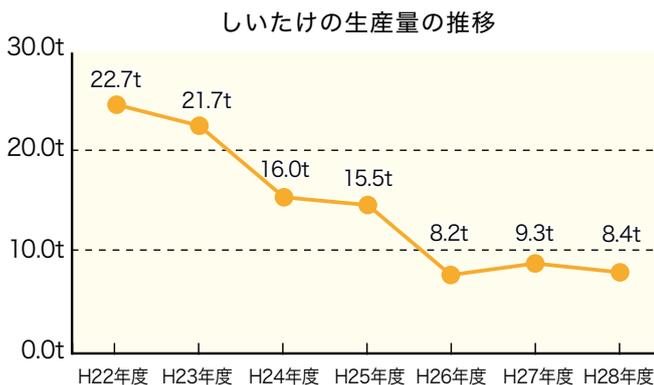
被災農地等の復旧作業を共同で行う取り組みへの助成事業を行っています。また、被災農業者に農業機械を貸与する事業を行っています。



■ 林業の復興・再生

□ 生産施設等の復旧

しいたけの価格は、福島第一原発事故による風評被害の影響により落ち込んでいましたが、回復の兆しが見えてきています。引き続き生産量の回復と生産者への支援に取り組みます。



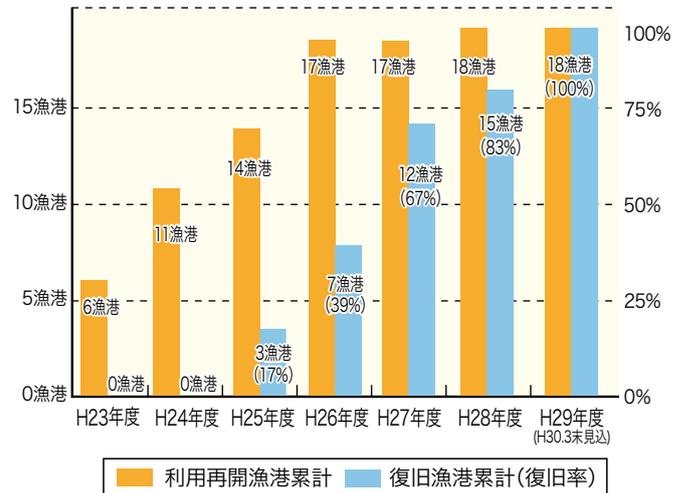
※宮古市しいたけ主産地化推進協議会調べ

■ 水産業の復興・再生

□ 漁港の復旧

被災した市内 18 漁港の防波堤等の復旧は平成 29 年度末までに完了の見込みです。

被災18漁港の状況(H30.3見込み)



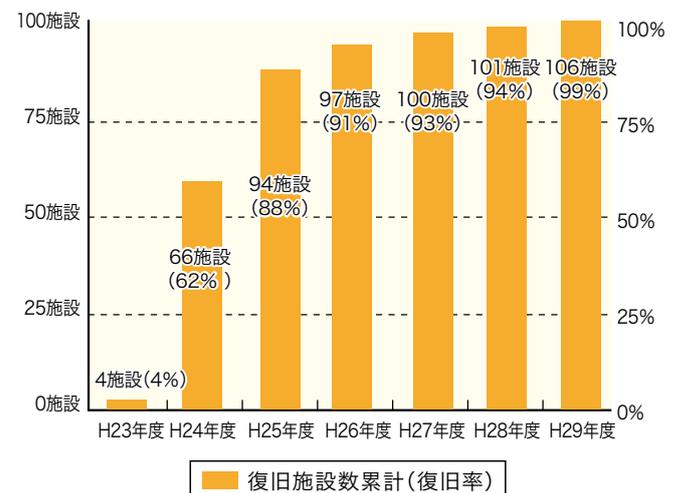
小港漁港でのアワビの仕分け作業

(平成 29 年 11 月)

□ 水産業共同利用施設の復旧

被災した冷凍冷蔵施設等の水産関連施設を共同利用施設として復旧する事業を行い、平成 29 年度までに復旧希望の 106 施設が復旧しました。

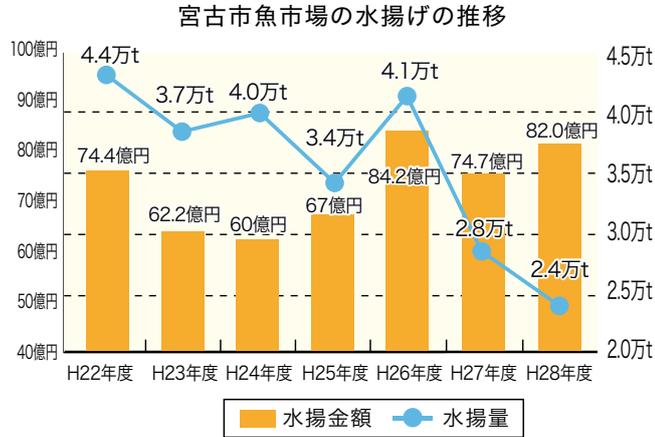
水産業共同利用施設の復旧状況(H29.12現在)



※H29年度は、H29.12現在の数値です。

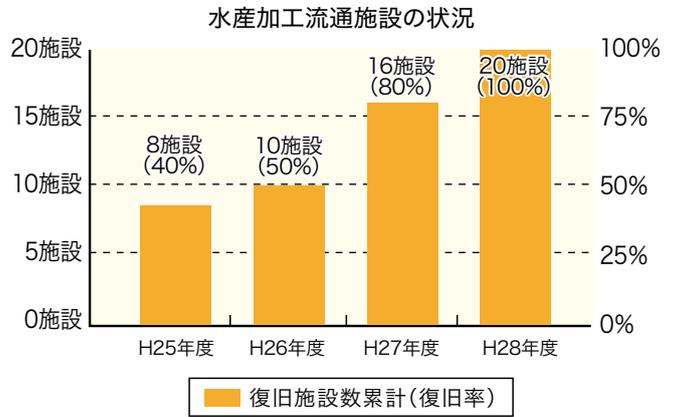
□宮古市魚市場の復旧

宮古市魚市場は、震災の1ヶ月後には仮復旧で業務を再開し、その後、平成24年度中に本復旧しました。また、平成27年度から2カ年にわたり行われた増築工事が完了し、平成29年4月から供用を開始しています。



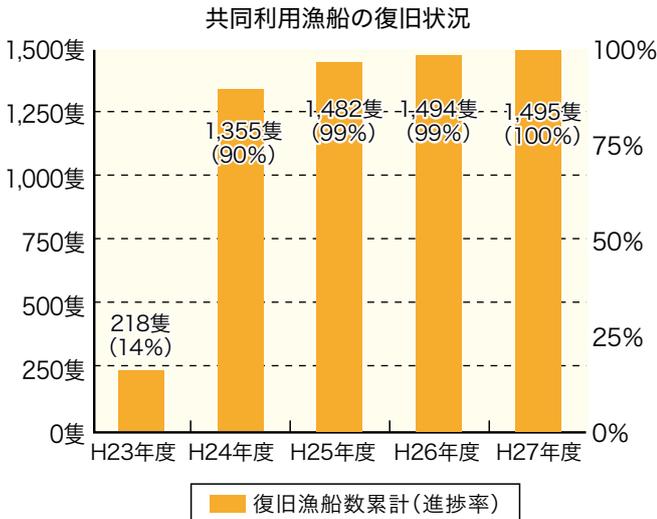
□水産加工流通業の復興のための取り組み

平成24年度に策定した「宮古市水産加工流通業復興計画」に基づき、水産加工流通施設の整備に対する補助事業を実施し、平成28年度までに再建希望の20施設がすべて完成しました。



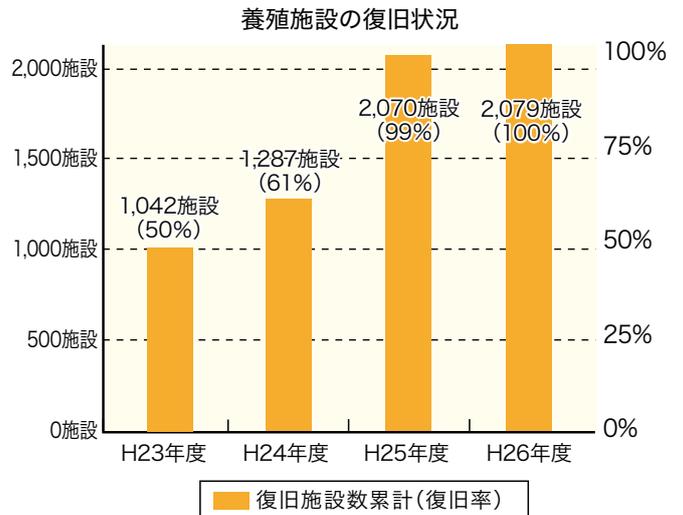
□共同利用漁船の復旧

漁業の要である漁船を共同利用漁船として復旧する事業を行い、平成27年度までに復旧希望の1,495隻すべてが復旧しました。



□養殖施設の復旧

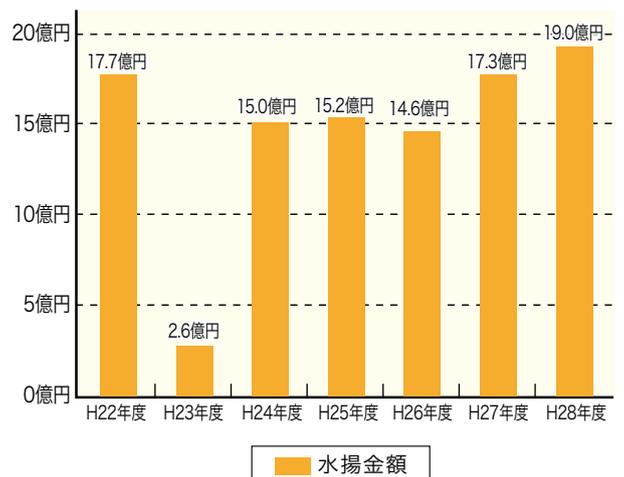
被災したワカメ、コンブ等の養殖施設を共同利用施設として復旧する事業を行い、平成26年度までに再開希望の2,079施設すべてが復旧しました。



石浜漁港でのワカメ湯通し作業

(平成29年4月)

養殖漁業の水揚金額の推移



■商業の復興・再生

□事業再開のための取り組み

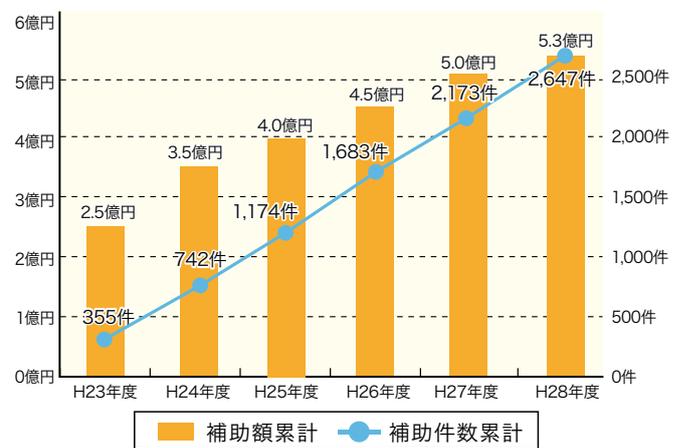
中心市街地の再建希望の事業者は、グループ補助金等により、ほぼ再建しています。平成 27 年 9 月にグループ補助金が交付決定された田老、鉾ヶ崎地区の事業者は、まちづくり事業の進捗に伴い、再建が本格化しています。

グループ補助金認定件数 (H29.12 現在)



※H29年度は、H29.12 現在の数値です。

震災復興中小企業者支援事業の状況

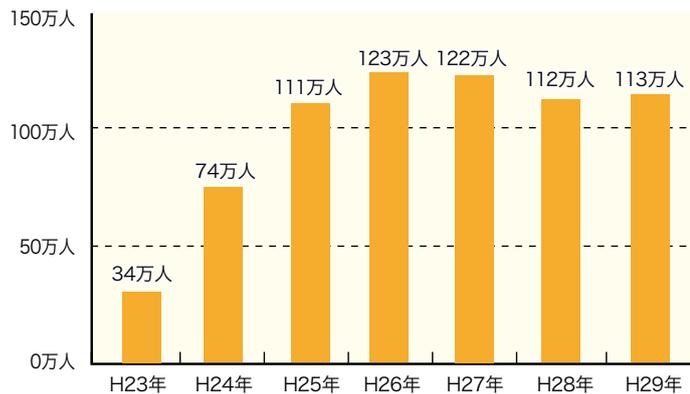


■観光の復興・再生

□観光施設の復旧と誘客のための取り組み

シートピアなどは平成 25 年 7 月に供用を再開、姉吉キャンプ場はデイキャンプ場として平成 28 年 3 月に復旧しました。また、震災による法面の崩落など危険個所の改修を行っていた浄土ヶ浜園地内道路は、平成 28 年度までに整備を完了しました。道の駅たろうは、平成 28 年 1 月に「重点道の駅」に選定され、同年 7 月に仮オープンしました。平成 30 年 4 月に本格オープンの見込みです。

観光客の入込状況の推移



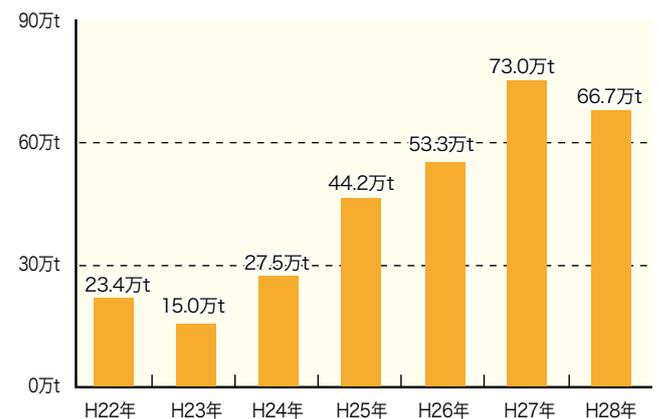
道の駅たろうに産直・交流施設「とれたろう」がオープン (平成 29 年 9 月)

■港湾の復興・再生

□港湾の復興・再生のための取り組み

藤原ふ頭は、岸壁が平成 26 年 3 月に復旧し、工業用地海側には、防潮堤の整備が進められています。現在、藤原ふ頭にフェリーターミナルの建設が行われており、平成 30 年 6 月の定期フェリー「宮蘭航路」開設に向け、取り組みが進んでいます。(フェリー航路については P18 参照)

宮古港貨物取扱量の推移



津軽石河川敷で行われた元祖・宮古鮭まつりでの鮭のつかみ取り (平成 29 年 12 月)

(3) 安全な地域づくり

■ 災害に強いまちづくりの推進

□ 都市再生区画整理事業の進捗状況

(鎌ヶ崎・光岸地区)

平成30年3月までに宅地はすべて使用が可能となる見込みです。平成30年度は、公園の整備等を行います。



鎌ヶ崎地区のラウンドアバウト（環状交差点）での交通安全教室（平成29年3月）

(田老地区)

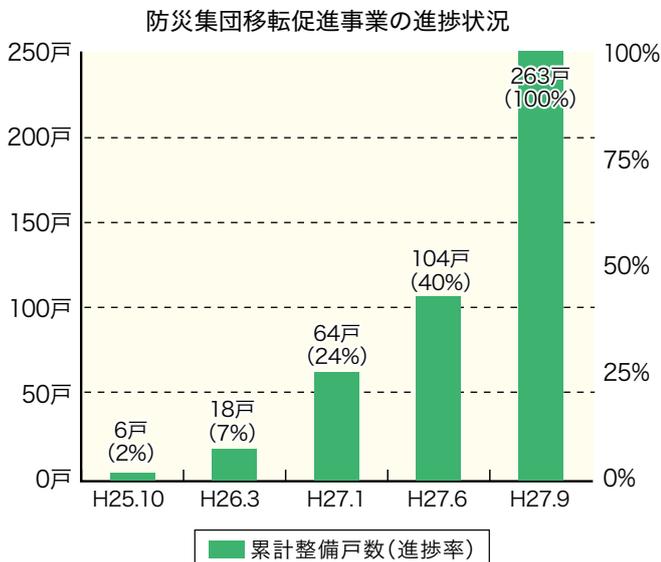
平成28年3月までに宅地はすべて使用が可能となり、平成28年度は、公園整備等を行いました。平成30年度は、防潮堤接続部の道路の整備を行います。



区画整理が進む田老地区（平成30年3月）

□ 防災集団移転促進事業の進捗状況

本事業による5地区の宅地は、平成27年9月までにすべて完成しました。引き続き、移転される方への建設補助、移転補助を行っています。



□ 漁業集落防災機能強化事業の進捗状況

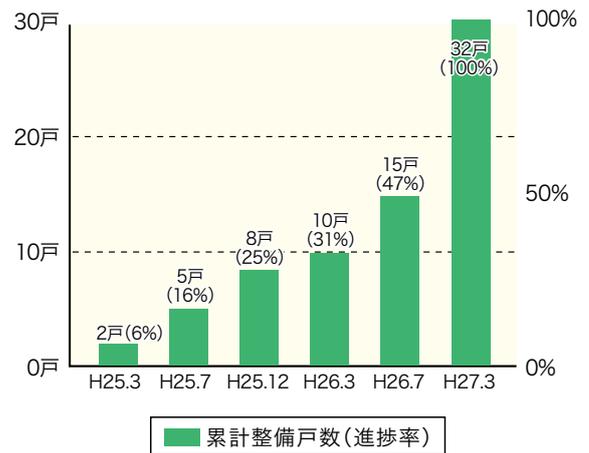
本事業による7地区の宅地は、平成27年3月までにすべて完成しました。また、水産施設用地の整備を行う田老野原地区は平成29年10月に完成、集落道の整備を行う女遊戸地区は平成30年1月に完成しました。（地区別の現況は、P19参照）



完成した女遊戸地区の漁業集落道

(平成30年1月)

漁業集落防災機能強化事業の進捗状況



完成した野原地区の水産施設用地

(平成29年10月)

□ 津波復興拠点整備事業の進捗状況

中心市街地地区及び津軽石地区の2地区で事業を行い、津軽石地区では、地域活動と防災の新たな拠点として被災公共施設3施設（保育所、公民館兼出張所及び消防屯所）を集約し、平成28年4月に供用開始しました。（中心市街地地区についてはP15参照）

□上下水道の復旧・整備の取り組み状況

これまでに各地区の被災した上下水道施設の復旧・復興工事を行ってきました。平成 29 年度には新川町・藤原地区の浸水対策のためのポンプ場整備に着手しています。



整備を進めている藤原地区のポンプ場
(平成30年1月)

□河川復旧

被災した 21 箇所の河川については、これまでに 19 箇所が復旧し、平成 30 年度中の完了を見込んでいます。

■災害に強い交通ネットワークの形成

□高規格幹線道路等整備促進のための取り組み

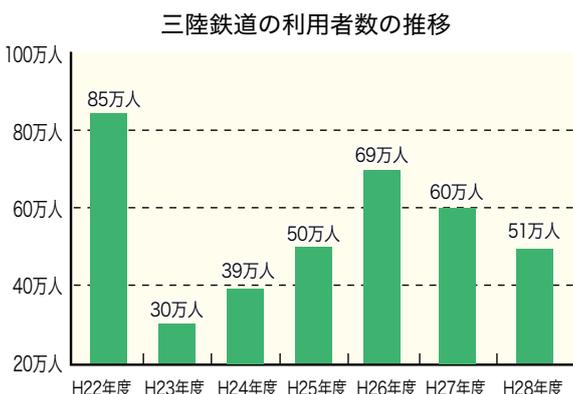
国及び県による復興道路・復興支援道路事業の促進のため、地元との調整などへの協力を行っています。市道北部環状線の山口～佐原間は、平成 28 年 12 月に供用を開始し、近内～山口間は、平成 30 年度に供用を開始する見込みです。(路線別の現況は P19、道路交通網は P17 参照)



近内地区と山口地区を結ぶ北部環状線第 2 トンネル貫通式 (平成 29 年 12 月)

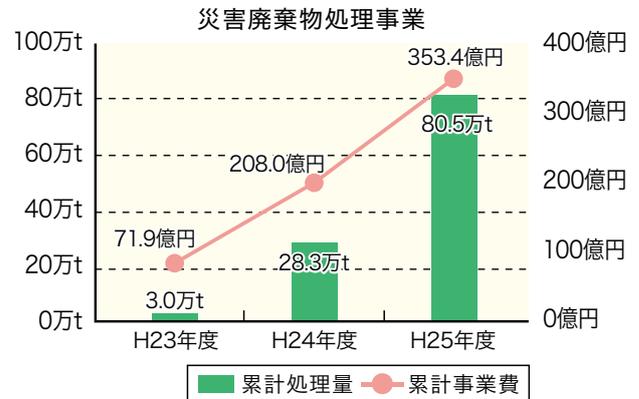
□公共交通の復旧と再生のための取り組み

三陸鉄道は、平成 26 年 4 月 6 日から全線で運転を再開しています。



□災害廃棄物処理

災害廃棄物の適正処理を実施し、平成 25 年度末までにすべての処理が完了しました。



□市内幹線道路・生活関連道路の復旧・整備

被災した 39 箇所の道路については、これまでに 35 箇所が復旧し、平成 30 年度中の完了を見込んでいます。また、復興関連の市道 10 路線の整備を行っており、平成 28 年度までに 4 路線(釜ヶ沢東線、駒形 1 号線、金浜 6 号線及び赤前上下線)が完了しました。平成 29 年度中に 1 路線(新田平乙部地区道路)、平成 30 年度に 1 路線(磯鶏金浜線金浜工区)の完了を見込んでいます。残る 4 路線(前須賀日立浜線、河南高浜線、高浜地区道路及び荒巻笹見内地区道路)についても、引き続き、事業を推進していきます。



三王団地と国道 45 号を結ぶ新田平乙部地区道路 (平成 29 年 12 月)

JR 山田線(宮古 - 釜石間)は、平成 27 年 2 月に関係自治体、三陸鉄道及び JR 東日本が鉄道の復旧及び三陸鉄道への移管に基本合意し、平成 31 年 3 月の運行再開に向け、現在復旧工事が進められています。(鉄道の復旧と新駅については P18 参照)



運行再開に向け工事が進む宮古駅構内(写真中央は車両整備等を行う検修庫) (平成30年2月)
提供：JR東日本盛岡支社

■地域防災力の向上

□津波避難路等の整備

宮古市都市防災総合推進事業計画を策定し、整備を進めています。藤原地区の避難路は、平成30年2月に完成しました。



整備が進む藤原地区の避難路
(平成30年1月)

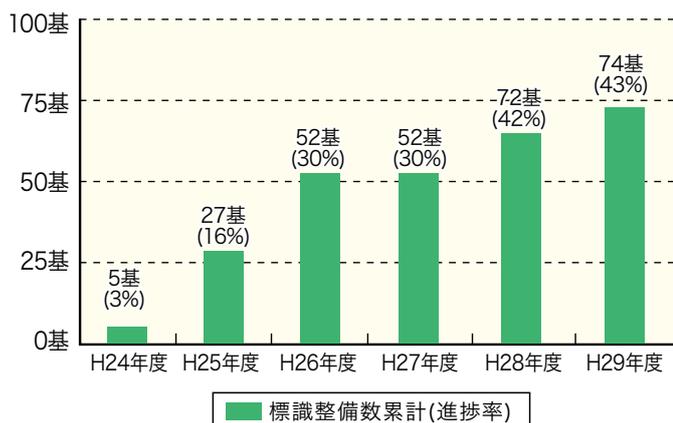
□津波避難誘導標識の整備

平成29年度までに、計画している171基のうち、74基の設置が完了しました。



千鷲地区に整備された津波避難誘導標識
(平成29年11月)

津波避難誘導標識整備事業の進捗状況



□津波浸水表示板の整備

平成28年度までに、計画した65箇所すべての設置が完了しました。



鯉ヶ崎地区の第6分団屯所に設置されている浸水表示板
(平成30年1月)

□消防力向上のための取り組み

消防ポンプ車及び小型動力ポンプ積載車は平成23年度にすべて復旧しました。また、消防屯所は、平成29年度までにすべて復旧しました。

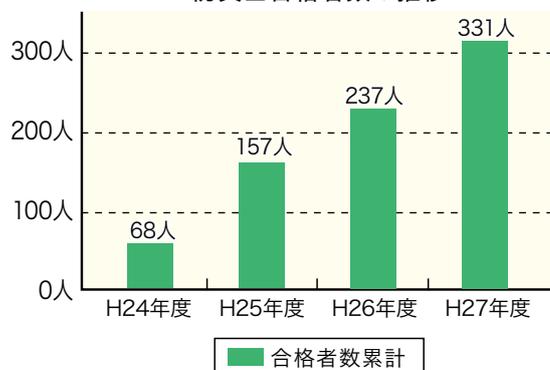


合築整備された高浜地区センター及び第11分団屯所
(平成29年5月)

□地域防災力向上促進のための取り組み

地域防災のリーダー育成のため、平成24年度から平成27年度まで防災士養成講座を開催し、331人が防災士に合格しました。引き続き、スキルアップのためのセミナーを開催しています。

防災士合格者数の推移



■災害記憶の後世への継承

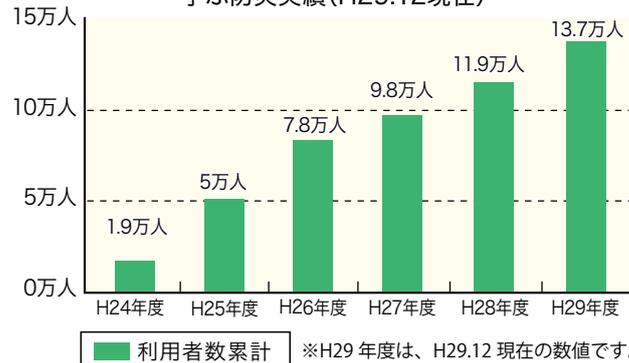
□震災資料の整理と震災記録の作成

平成25年度に『東日本大震災宮古市の記録』第1巻(津波史編)、平成28年度に被災体験や証言を収録した第2巻(復興・防災編/記憶伝承編)を刊行しました。

□津波遺構たろう観光ホテルの活用

平成24年度から、田老地区で災害の記憶を伝える防災学習ツアー「学ぶ防災」を行っており、一般旅行をはじめ、教育旅行や企業研修等で活用され、多くの方が来訪しています。平成28年5月には、これまでの利用者が10万人に達し、記念セレモニーを開催しました。今後、エレベーター棟の整備を予定しています。

学ぶ防災実績(H29.12現在)



※H29年度は、H29.12現在の数値です。



津波遺構たろう観光ホテル屋上から視察する吉野復興相
(平成29年10月)

4 発展期の取り組み

■ 中心市街地拠点施設整備事業



□ 施設概要

建設地 …宮古市宮町一丁目ほか
敷地面積 …約15,697㎡
主要用途 ……市民交流センター（仮称）、市本庁舎、
宮古保健センター
建築面積 …約5,218㎡
延べ面積 ……約14,435㎡
構造種別 …鉄骨造/耐震構造
階数、高さ …地上6階、約26m
駐車場 ……188台（来客用137台、公用車51台）
ほか駐輪場
付属施設 ……避難通路（自由通路）、エントランス
ゲート（宮古駅側入口）、公用車車庫棟

- 3つの機能をもった複合施設です。
- 市民総選挙により、施設の愛称が「イーストピアみやこ」、自由通路の愛称が「クロスデッキ」に決定しました。
- 市民交流センター（仮称）では、音楽スタジオや運動スタジオ、創作スタジオ等を配置し、ガラス越しに活動の様子を見ることができます。
- 防災機能を備え、災害発生時には、避難者の一部避難場所となります。

□ スケジュール

平成28年9月に建設工事に着手。平成30年7月の完成、10月の供用開始を見込みます。

■ スマートコミュニティ

再生可能エネルギーを“地産地消”で無駄なく有効に活用するため、官民連携により取り組んでいます。
CEMS（地域エネルギー管理システム）を活用し、需要と供給のバランスがとれたエネルギー利用を目指します。

<エネルギーの創出>

- メガソーラー
H27. 9.15～ 津軽石発電所（1,607kw/約2.5ha）
H27.10.15～ 田老発電所（2,367kw/約3.4ha）
【特色】津波浸水により住宅等の建築を制限された区域に設置

<エネルギーの供給>

- 地域新電力
H28.9.1～ 地産電力（津軽石発電所）供給開始
公共施設や民間施設など125施設へ供給中
（H30.4.1現在）

<エネルギーの有効活用>

- BEMS（ビル用省エネ機器）
H28.3.30～ 公共施設2カ所に設置・運用
H30.4.1～ 公共施設5カ所に設置・運用
- カーシェアリング
H26.4.1～ 自動車共同利用サービス開始
【特色】災害時は避難所などで非常用電源として活用
- 給電設備
H29.2.1～ 道の駅（みやこ・たろう・やまびこ館）で
電気自動車用の急速充電サービス開始
【特色】地産電力を供給



宮古スマートコミュニティキャラクター
「あかりちゃん」「ずむずむ」



←詳しくはこちら
スマートコミュニティ推進協会HP

※引き続き、スマートコミュニティのさらなる推進を図る計画です。

三陸ジオパーク

三陸ジオパークは、平成25年9月に日本ジオパークとして認定されました。エリアは、青森県八戸市から宮城県
の気仙沼市までの3県16市町村で、その海岸線は約300kmにもおよぶ日本最大のジオパークです。

三陸ジオパークには、130か所のサイトがあり、そのうち宮古市には、浄土ヶ浜をはじめとする17か所のサ
イトがあります。



ジオパークとは

ジオパークとは、大地(ジオ)と人間の関係を見つめなおす公園です。地球科学的に価値の高い地質・地形のある自然遺産を保護・保全し、
教育や防災、観光などに活用し、地域の持続可能な発展を目指すものです。

宮古市内のサイト



①田老の防潮堤



④津波記念碑



⑥震災メモリアルパーク中の浜



⑩崎山貝塚



⑪浄土ヶ浜



③津波到達点



⑤三王岩



⑦潮吹穴



⑫鮎ヶ崎



⑮腹帯の混在岩



⑯薬師川溪流の古生界



②津波遺構たろう観光ホテル



⑧日出島



⑬十二神山



⑰早池峰山



⑨ローソク岩

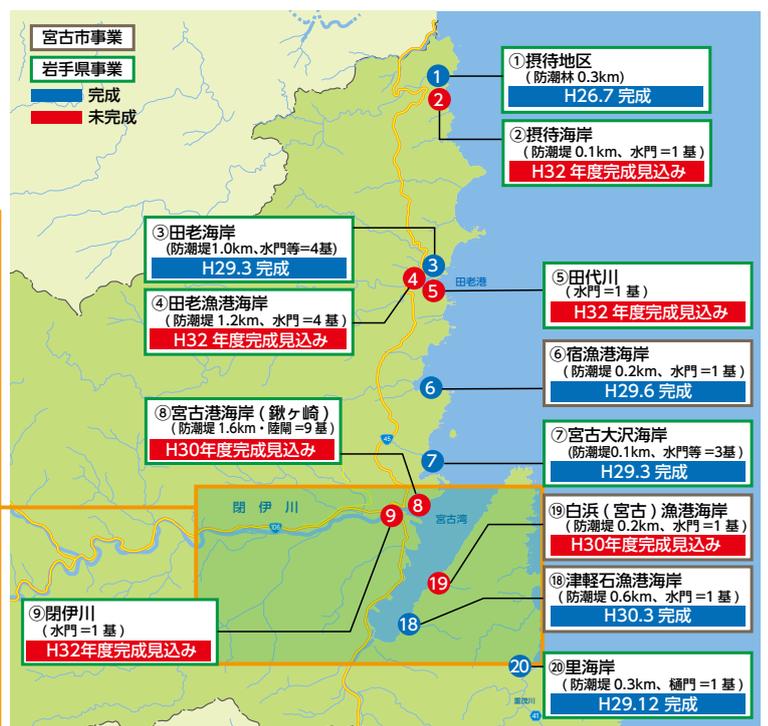
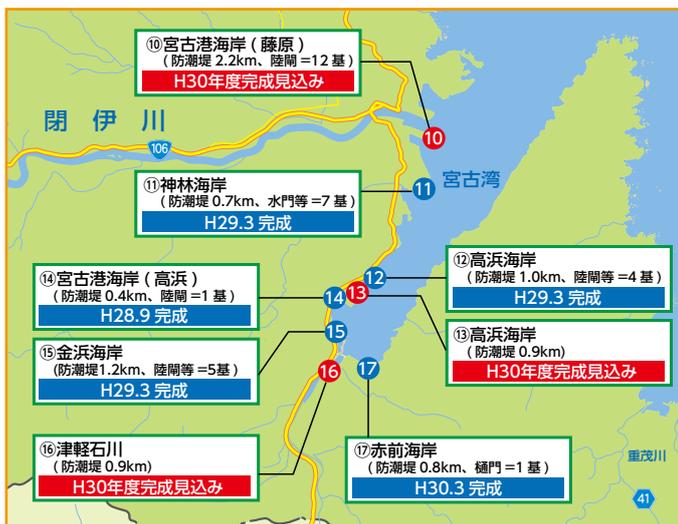


⑭黒森神社・黒森神楽

津波対策施設

津波対策施設のうち、防潮堤、水門及び防潮林の整備の進捗
状況は、図のとおりです。

平成32年度までにすべて完成する見込みです。



フェリー航路

平成30年6月22日に本市と室蘭市を結ぶ岩手県初の定期フェリー航路が開設されます。航路が開設されると、新たな観光ルートの創出や、道路交通網の整備と合わせた物流の効率化など、人、物の様々な交流が期待されます。

□航路の概要

運航計画	1日1往復	
	宮古 8:00発	→室蘭 18:00着
	室蘭 20:00発	→宮古 翌6:00着
使用船舶	シルバークイーン(川崎近海汽船株式会社)	
定員	600名	
積載能力	トラック	69台(12m換算)
	乗用車	20台



□期待される効果

- 三陸沿岸道路や宮古盛岡横断道路の整備とあわせて、陸・海のアクセス向上と物流のコストダウンが図られます。
- 三陸ジオパークと洞爺湖有珠山ジオパーク巡りなど、新たな観光・交流の可能性が広がります。



藤原ふ頭に建設中のフェリーターミナル完成イメージ



室蘭市にある白鳥大橋の夜景

鉄道の復旧と新駅



JR山田線(宮古-釜石間)は、JR東日本から三陸鉄道への移管が決まっており、平成31年3月の運行再開に向け工事が進められています。

地域の交通利便性を高め、沿線の活性化及び利用促進を図るため、復興後の新たなまちづくりにあわせ、山田線に「八木沢・宮古短大駅」と「弘川駅」の整備、また、三陸鉄道北リアス線に「新田老駅」の整備を予定しています。

「八木沢・宮古短大駅」と「弘川駅」は、平成31年3月の運行再開に合わせた供用開始、「新田老駅」は、平成31年度中の供用開始を予定しています。



運行再開に向け工事が進む津軽石駅構内の様子(平成30年2月) 提供: JR東日本盛岡支社

5 おもな復興事業の現況

区分	事業主体	路線・箇所名等	事業概要	現況	
復興道路	国	1 三陸沿岸道路	田老岩泉道路 (田老北～岩泉)	H30.3 供用開始	
			宮古田老道路 (宮古中央～田老北)	田老真崎海岸IC～田老北IC H30.3 供用開始 宮古中央IC～田老真崎海岸IC H32年度供用見込み	
			宮古道路 (宮古中央インター線)	H25.3 宮古中央インター線 (千徳大橋)供用開始	
			山田宮古道路 (山田～宮古南)	H29.11供用開始	
	2 宮古盛岡横断道路	宮古箱石道路 (宮古～箱石)	川井～箱石地区 H32年度供用見込み 下川井地区 H31年度供用見込み 暮目～腹帯地区 H32年度供用見込み 藤原～松山IC H32年度供用見込み		
		平津戸松草道路 (平津戸・岩井～松草)	H26.8.24起工式		
		区界道路 (区界～築川)	H32年度供用見込み		
	復興支援道路	県	3 国道 340 号	小国	H25.11 供用開始
				和井内道路	H30.3供用見込み
				立丸峠	H30年度供用見込み
押角峠				H32年度供用見込み	
復興関連道路	県	4 重茂半島線	白浜～堀内	H27.3 供用開始	
		5 津軽石停車場線	津軽石	H30年度供用見込み	
		6 市道 北部環状線	山口～佐原 近内～山口	H28.12 供用開始 H30年度供用見込み	
土地区画整理	市	1 田老地区	区域面積：19.0ha 対象戸数：220戸 (民180戸・公40戸)	H28.3完成	
		2 欽ヶ崎・光岸地地区	区域面積：23.8ha 対象戸数：270戸 (民230戸・公40戸)	H30.3完成	
防災集団移転	市	1 田老地区	対象戸数：230戸 (民159戸・公71戸)	H27.9完成	
		2 崎山地区(大付)	対象戸数：30戸 (民6戸・公24戸)	H25.12完成	
		3 高浜・金浜地区	対象戸数：52戸 (民40戸・公12戸)	H27.6完成 (整備保留：民1戸)	
		4 法之脇地区(津軽石)	対象戸数：12戸 (民12戸)	H26.3完成	
		5 赤前地区	対象戸数：46戸 (民46戸)	H27.1完成 (整備保留：民4戸)	
津波復興拠点	市	1 津軽石地区	区域面積：約1.2ha	H29.2完成	
		2 中心市街地地区	区域面積：約1.6ha	H30年度完成見込み	
漁業集落防災機能強化	市	1 摂待地区	対象戸数：3戸 (民3戸)	H25.7完成	
		2 堀内地区	対象戸数：2戸 (民2戸)	H26.3完成	
		3 浦の沢・追切地区	対象戸数：2戸 (民2戸)	H25.3完成	
		4 音部地区	対象戸数：3戸 (民3戸)	H26.7完成	
		5 重茂地区	対象戸数：21戸 (民17戸・公4戸)	H27.3完成	
		6 千鷲地区	対象戸数：3戸 (民3戸)	H25.12完成	
		7 女遊戸地区	集落道他	H30.1完成	
		8 石浜地区	対象戸数：2戸 (民2戸)	H26.7完成	
		9 田老野原地区	集落道、用地造成	H29.10完成	

区分	事業主体	路線・箇所名等	事業概要	現況
まちづくり連携道路	県	1 崎山宮古線	欽ヶ崎	H29.3供用開始
		2 重茂半島線	熊の平～堀内	H30年度供用見込み
		3 重茂半島線	堀内～津軽石	H30年度供用見込み
		4 重茂半島線	里	H30年度供用見込み
		5 重茂半島線	千鷲	H30.3供用開始
		6 重茂半島線	石浜	H30年度供用見込み
		7 重茂半島線	川代	H29.12供用開始
災害公営住宅	市	1-① 田老三王Ⅰ	戸数 36戸 木造2階	H27.10完成
		1-② 田老三王Ⅱ	戸数 29戸 木造1階・木造2階	H28.3完成
		1-③ 田老三王Ⅲ	戸数 6戸 木造1階	H28.3完成
		2 田老	戸数 40戸 RC造5階	H27.11完成
		3 崎山	戸数 24戸 RC造4階	H27.3完成
		4 日の出町	戸数 26戸 木造2階	H27.4完成
		5 港町	戸数 40戸 RC造5階	H27.12完成
		6 和見町	戸数 23戸 RC造5階	H27.3完成
		7 黒田町	戸数 24戸 RC造5階	H27.8完成
		8 山口	戸数 23戸 RC造4階	H29.1完成
		9-① 近内Ⅰ	戸数 40戸 RC造5階	H26.3完成
		9-② 近内Ⅱ	戸数 40戸 RC造5階	H27.3完成
		10 西ヶ丘	戸数 24戸 RC造4階	H27.4完成
		11 高浜	戸数 12戸 木造2階	H26.4完成
12 金浜	戸数 12戸 木造2階	H27.11完成		
13 赤前	戸数 14戸 木造2階	H26.11完成		
14 重茂	戸数 4戸 木造1階	H27.6完成		
県(市営)	市	1 本町	戸数 34戸 RC造8階	H27.9完成
		2-① 西町1号棟	戸数 30戸 RC造5階	H27.6完成
		2-② 西町2号棟	戸数 23戸 RC造4階	H27.6完成
		3 津軽石	戸数 35戸 RC造5階	H27.7完成
県(県営)	市	4 上村	戸数 24戸 RC造4階	H28.3完成
		1 上鼻	戸数 24戸 RC造4階	H27.7完成
		2 八木沢	戸数 42戸 RC造5階	H27.10完成
		3 佐原	戸数 50戸 RC造5階	H27.2完成
		4 磯鷲	戸数 30戸 S造2階	H27.3完成
		5 宮町	戸数 20戸 S造3階	H27.3完成
		6 鴨崎町	戸数 20戸 S造3階	H27.9完成
7 実田	戸数 17戸 S造3階	H27.7完成		

※民：民間宅地 公：公営住宅 ※スケジュールは、平成30年3月21日現在における計画であり、今後、変更する可能性があります。